

来月、八事エリアに移転

東名古屋画像診断クリニック

最新機器導入、診断メニュー拡充

偕行会グループの医療法人名古屋放射線診断財団東名古屋画像診断クリニック（名古屋市中区）は、10月1日に名古屋市中昭和区の八事エリアに移転・開院する。従来、千種区の愛知県がんセンター所有地にあったが、返却に伴い移転。がんの早期発見に有用な最新のPET-CTやMRIを導入し、診断メニューを拡充して開院する。海外からの健康診断の受け入れも強化し、多様な医療ニーズに応える。

（竹田ゆりこ）

海外からの健診受け入れも

開院に先立ち11日、報道陣向けの内覧会を行った。新施設は、名古屋市中昭和区山手通2丁目7の7に開院。地下鉄名城線・八事駅赤駅から徒歩約5分の距離

にある。建物は5階建てで、延べ床面積は4252平方メートル。旧施設の約1・6倍に拡大する。

保険診療と自由診療の両輪で、連携医療機関からの依頼検査に対応するほか、独自に展開する会員制健康診断サービス「CELEB」（セレブ）の充実を図る。

個室は全10室に増設



緊張を和らげる映像が流れる最新のMRI



最新のPET-CTとMRIを各2台新規導入し、検査時間を30分から20分に短縮。1日当たりの検査枠を、MRIの場合で約1・5倍に増やす。

画像を読み解く「読影」の放射線診断専門医は5人を配置。地域最大級の画像診断施設となる。健診の待ち合いなどに利用できる個室は、旧施設の6室から新施設は10室に増設する。海外から家族連れで訪れる健診ニーズなどにも対応。高品質な画像診断と、快適な受診環境を提供する考えだ。

開院に合わせて、会員制健診サービスのセレブに「プレミアムコース」（税込み59万4千円）を新設。全身のがんを調べるスタンダードコース（同29万7千円）と、全身のがん検査のほか脳や心臓、眼科、生活習慣病まで幅広くカバーする総合コース（同44万円）の内容をさらに強化し、1年間の検査サポートと半年後のフォローアップ検査を加えた。

同クリニックは、2004年にPET-CTを日本で初めて臨床導入した医療法人で、これまでに累計21万件を超える検査を実施してきた実績を持つ。岩田宏理事長は「画像診断で地域医療に貢献してきた自負がある。見逃しをできる限りなくす。ここに来れば安心だ、任せたい、と言っている。ただけるクリニックを目指す」と話した。

